

ケニア

Republic of Kenya

	2013年	2014年	2015年
①人口：4,420万人（2015年）			
②面積：58万3,000km ²			
③1人あたりGDP：1,388米ドル （2015年）			
④実質GDP成長率（%）	5.7	5.3	5.6
⑤消費者物価上昇率（%）	5.7	6.9	6.6
⑥失業率（%）	n.a.	n.a.	n.a.
⑦貿易収支（100万米ドル）	△10,244	△11,319	△9,580
⑧経常収支（100万米ドル）	△4,842	△6,000	△4,325
⑨外貨準備高 （100万米ドル）	6,216	8,012	7,565
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	9,887	13,083	15,296
⑪為替レート（1米ドルにつき、 ケニア・シリング、期中平均）	86.12	87.92	98.18

〔注〕④⑦⑧⑩の2015年は暫定値、⑦：国際収支ベース（財のみ）、⑦～⑩：ケニア・シリング建てをドル換算、⑩は2012/13年度（2012年7月～2013年6月）、2013/14年度、2014/15年度
〔出所〕①②④⑤⑦～⑩：ケニア国家統計局、③：IMF

観光業を除きプラス成長を維持

2015年の実質GDP成長率は5.6%で、ホテル・レストラン業（観光業）を除く全産業が前年に引き続きプラス成長となった。需要項目別では、GDPの約8割を占める民間最終消費支出（前年比5.3%増）が成長に最も貢献し、国内総固定資本形成（5.2%増）がそれに次いだ。

産業別にみると、農林水産業は、前年の3.5%増から5.6%増に伸びが拡大し、約30年ぶりにGDP構成比が3割となった。降雨に恵まれたことでメイズ（トウモロコシ）、小麦、コメの生産量がそれぞれ9.0%、4.2%、24.1%増加した。園芸作物の生産量は8.4%増え、サトウキビや生乳なども好調だった。製造業（GDP構成比10.3%）の成長率は、前年の3.2%増から3.5%増に上昇した。石油製品価格や電力料金の低下が製造業にとって追い風になった。国内の自動車組み立て台数は、前年（9,514台）比7.0%増の1万181台と初めて1万の大台を超えた。建設業（構成比4.8%）は13.6%増と、2年連続で13%超の成長率を記録した。モンバサ港とナイロビを結ぶ標準軌鉄道（SGR）の建設事業などの大型インフラ投資や民間による不動産開発が成長を押し上げている。運輸・倉庫業（構成比8.4%）は、前年の4.6%増から7.1%増に伸びた。卸・小

売業や建設業などの輸送需要が増加したことで、2015年の自動車登録台数は貨物自動車など商用車を中心に13.4%増の24万7,181台となった。卸・小売業（構成比7.5%）も、堅調な内需を背景に6.0%伸びた。在外ケニア人からの送金額が8.4%増となるなど消費を下支えした。金融・保険業（構成比6.9%）は8.7%増だった。商業銀行の名目貸出金利が最大17.45%という高水準にもかかわらず、2015年末時点での国内における貸付額は19.3%増の2兆7,995億ケニア・シリング（以下、Ksh）だった。一方、観光業（構成比0.8%）は1.3%減と3年連続のマイナスとなった。2015年のケニアへの渡航者数は、12.6%減の118万人に落ち込んだ。宿泊施設稼働率は29.1%と4年連続で低下している。

政府は、2016年の実質GDP成長率を6.8%と強気の見通しを示している。2016年も石油製品の価格が低水準で推移すると予測されるため、インフレ率が抑制されることで消費が活性化するのに加えて、SGR開発などのインフラ事業も順調に進むとの期待があるためだ。

貿易赤字が11年ぶりに縮小

2015年の貿易は、輸出（再輸出を除く）が前年比8.5%増の4,997億800万Ksh、輸入が2.5%減の1兆5,775億5,700万Kshで、貿易赤字は前年比6.9%減となり、11年ぶりに縮小した。

輸出の主要品目は紅茶、園芸作物、衣料品・アクセサリーなどで、これら上位3品目が再輸出を除いた輸出額の50.4%を占めた。最大の輸出品目である紅茶の生産量は前年比10.3%減だったものの、国際市況価格が高値を維持したことを受け、平均商品価格（生産者価格）が55.6%上昇したことから、輸出額は30.9%増の1,230億

表1 ケニアの需要項目別実質GDP成長率

	（単位：%）		
	2013年	2014年	2015年
実質GDP成長率	5.7	5.3	5.6
民間最終消費支出	8.5	4.6	5.3
政府最終消費支出	5.5	6.0	15.4
国内総固定資本形成	1.2	14.8	5.2
財貨・サービスの輸出	0.5	5.3	△0.9
財貨・サービスの輸入	△0.8	10.6	△1.2

〔注〕2015年は暫定値。

〔出所〕ケニア国家統計局

表2 ケニアの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ケニア・シリング、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2014年		2015年			2014年		2015年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
紅茶	93,996	123,025	24.6	30.9	石油製品	292,643	214,695	13.6	△26.6
園芸作物 (花卉、野菜、果実)	97,105	100,963	20.2	4.0	産業用機械	256,672	211,724	13.4	△17.5
衣料品・アクセサリー	28,948	28,226	5.6	△2.5	自動車	101,792	117,637	7.5	15.6
コーヒー (生豆)	19,913	20,580	4.1	3.3	鉄鋼	75,526	88,153	5.6	16.7
たばこ・同製品	16,827	15,757	3.2	△6.4	航空機・同製品	129,589	83,094	5.3	△35.9
鉄鋼	13,443	12,290	2.5	△8.6	プラスチック原料・同製品	60,217	62,724	4.0	4.2
医薬品	8,296	11,199	2.2	35.0	医薬品	52,088	61,513	3.9	18.1
プラスチック製品	10,995	11,174	2.2	1.6	動植物性油脂類	50,044	47,038	3.0	△6.0
エッセンシャルオイル	10,854	9,822	2.0	△9.5	非製粉小麦	33,831	35,663	2.3	5.4
チタン鉱	7,282	9,420	1.9	29.4	通信関連機器	23,622	29,444	1.9	24.6
合計 (その他含む)	460,572	499,708	100.0	8.5	合計 (その他含む)	1,618,321	1,577,557	100.0	△2.5

[注] 輸出には再輸出は含まない。2015年は暫定値。

[出所] ケニア国家統計局

表3 ケニアの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ケニア・シリング、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2014年		2015年			2014年		2015年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
ウガンダ	60,783	68,574	11.8	12.8	中国	248,648	320,816	20.3	29.0
オランダ	40,614	42,041	7.2	3.5	インド	264,536	252,523	16.0	△4.5
米国	38,290	40,725	7.0	6.4	米国	168,720	126,041	8.0	△25.3
英国	35,868	40,668	7.0	13.4	アラブ首長国連邦(UAE)	103,255	90,573	5.7	△12.3
パキスタン	22,022	35,250	6.1	60.1	日本	86,554	88,239	5.6	1.9
タンザニア	42,725	33,663	5.8	△21.2	南アフリカ共和国	63,893	61,311	3.9	△4.0
アラブ首長国連邦(UAE)	20,198	29,239	5.0	44.8	サウジアラビア	56,565	55,306	3.5	△2.2
コンゴ民主共和国	21,052	20,673	3.6	△1.8	ドイツ	47,409	47,381	3.0	△0.1
エジプト	17,509	20,166	3.5	15.2	インドネシア	48,598	45,939	2.9	△5.5
ルワンダ	14,441	17,950	3.1	24.3	英国	47,037	42,970	2.7	△8.6
合計 (その他含む)	537,236	581,045	100.0	8.2	合計 (その他含む)	1,618,321	1,577,557	100.0	△2.5

[注] 再輸出を含む。2015年は暫定値。

[出所] ケニア国家統計局

2,500万Kshになった。園芸作物は花卉、野菜、果実がそれぞれ5.0%増、11.2%増、22.2%増と好調だったため、輸出額は4.0%増の1,009億6,300万Kshとなった。

国・地域別 (再輸出を含む) では、最大の輸出相手国はウガンダで、輸出額は685億7,400万Kshだった。ウガンダ向け主要品目はセメント、鉄鋼、医薬品であり、2015年は潤滑油、薬剤、塩が増加した。先進国市場向けの輸出では、オランダや英国向けに園芸作物や紅茶が、米国向けはアフリカ成長機会法 (AGOA) を活用した衣料品が中心となる貿易構造に変化はない。

輸入では、石油製品、産業用機械、自動車、鉄鋼が主要品目で、これら上位4品目で輸入全体の約4割を占めた。最大の輸入品目である石油製品は、国際的な原油価格の低下に伴い、前年比26.6%減の2,146億9,500万Kshと大きく減少した。2位の産業用機械は17.5%減の2,117億2,400万Kshだった。2015年通年でケニア・シリングがドルに対し11.7%下落したことが要因だ。

国・地域別では、アジア諸国からの輸入が9,816億5,000万Kshとなり、全体の62.2%を占めた。中でも、前年比29.0%増の3,208億1,600万Kshに達した中国が4年ぶりに

最大の輸入相手国となった。中国からの最大の輸入品目は携帯通信関連資機材で、そのほかSGR建設事業で利用される建設資材、建設機械、機関車などが輸入額を押し上げている。2位はインドで、4.5%減の2,525億2,300万Kshだった。インドからの最大の輸入品目である石油製品の価格が下落したことが影響した。米国からの輸入額は、2014年にケニア航空が米国からボーイングの旅客機「787ドリームライナー」を5機調達した反動で、25.3%減の1,260億4,100万

Kshとなった。

■活発化する外国企業の活動

ケニア国家統計局によると、2015年の対内直接投資額 (国際収支ベース、ネット、フロー) は1,458億7,780万Kshで、前年比21.1%増となった。ケニア投資庁 (Ken Invest) のデータを基に集計した2015年の新規投資申請件数は前年比2.3倍の249件で、新規投資申請額は3.7倍の2,082億4,370万Kshとなった。外国企業がケニアに投資する際にKenInvestへ登録することは義務付けられていないため、実際の件数や金額はこれらを上回ると考えられる。

最大の投資分野は建設・不動産で、申請額は全体の63.1%を占めている。建設や不動産の開発ブームを背景に、大型投資の申請が全体を押し上げた。国別では、南アフリカ共和国 (以下、南ア、1,181億7,820万Ksh) とアイルランド (454億5,050万Ksh) の上位2カ国で78.5%を占めた。南アは大型の不動産開発に対する投資が、アイルランドは鉱業分野に対する投資が目立った。

国別の投資申請件数では、中国が最も多い。インフラ

表4 日本の対ケニア主要品目別輸出入<通関ベース>
(単位:100万ドル、%)

輸出 (FOB)				
	2014年		2015年	
	金額	金額	構成比	伸び率
鉄道用以外の車両	638.0	644.9	69.6	1.1
乗用自動車	375.4	402.0	43.4	7.1
貨物自動車	218.3	207.6	22.4	△4.9
原動機付きシャシー	26.5	19.7	2.1	△25.7
鉄鋼	148.3	142.3	15.4	△4.0
鉄または非合金鋼のフラットロール製品(熱間圧延をしたもので600ミリ以上)	125.4	124.7	13.5	△0.6
一般機械	38.5	44.4	4.8	15.3
デリック、クレーン(ケーブルクレーンを含む)	0.1	19.3	2.1	19,200.0
自走式ブルドーザー、アングルドーザー、地ならし機、その他	11.4	5.5	0.6	△51.8
セメント	1.5	12.1	1.3	706.7
人造繊維の短繊維・織物	21.0	9.5	1.0	△55.0
合計(その他含む)	955.4	926.1	100.0	△3.1
輸入 (CIF)				
	2014年		2015年	
	金額	金額	構成比	伸び率
スパイス・コーヒー・茶	12.0	17.1	24.4	42.5
コーヒー	7.2	9.0	12.9	25.0
茶	4.8	8.1	11.6	68.8
樹木・植物	13.9	13.3	19.0	△4.3
切り花、花芽	9.9	9.8	14.0	△1.0
植物の葉、枝、草、苔、その他	2.5	2.0	2.9	△20.0
チタン鉱(精鉱を含む)	5.1	12.9	18.4	152.9
銅のくず	8.9	8.2	11.7	△7.9
調製食品	8.7	6.4	9.1	△26.4
コーヒー・茶のエキス、エッセンス、濃縮物	8.6	6.4	9.1	△25.6
たばこ	1.2	2.6	3.7	116.7
合計(その他含む)	59.9	70.0	100.0	16.9

[出所] 財務省「貿易統計(通関ベース)」を基に作成

事業のみならず、二輪車の組み立て製造、農産物の生産・輸出、ビニール袋や鉄鋼製品、皮革製品の製造、物流など、さまざまな分野で投資が増えている。英国のフィナンシャル・タイムズ(FT)のデータによると、中国航空工業集団(AVIC)がナイロビの不動産開発や住宅開発に大規模投資を行っている。米国からの申請数は中国に次いで多く、情報通信技術(ICT)、卸売り・小売り・貿易、サービス業、製造業など多岐にわたる。FTのデータによると、米国のマーズは2015年4月に、菓子製造メーカーのリグリーイーストアフリカの工場の拡張工事に投資している。ゼネラル・エレクトリック(GE)は、7月に医療機器のサービスセンターを開設している。

卸売り・小売りの分野では、中間層の拡大や市場の潜在性に注目した外資が投資を加速させており、同分野での競争が激化している。大手スーパーのゲームスター(南ア)が2015年6月に、カルフル(フランス)が2016年5月にそれぞれ1号店をオープンした。また、現地報道によると、チョピーズ(ボツワナ)が6月に地場スーパーのウクワラの買収を発表している。

■日本企業の進出も徐々に増加

日本の「貿易統計(通関ベース)」をドル換算したものでみると、対ケニア貿易は、輸出が前年比3.1%減の9億2,610万ドル、輸入が16.9%増の7,000万ドルだった。日本の貿易黒字は4.4%縮小し、8億5,610万ドルとなった。

最大の輸出品目は自動車で、乗用自動車と貨物自動車の2品目が輸出総額の65.8%を占めた。鉄鋼(構成比15.4%)の輸出額は、4.0%減の1億4,230万ドルと減少した。中国経済の減速に伴う鉄鋼の市況価格の下落により、1キロ当たりの価格が27.3%低下したことが影響した。豊田通商が、三井造船とともにケニア港湾公社(KPA)から受注したモンバサ港の港湾クレーン6基を納品したことにより、一般機械のクレーン等の輸出額は前年より1,920万ドル増加した。

最大の輸入品目は1,290万ドル(前年比2.5倍)のチタン鉱で、輸入額全体の18.4%を占めた。チタンは他の金属との合金にして、航空機の機体やエンジン部品、発電所の蒸気タービンなどの素材として利用される。切り花、花芽の輸入額は1.0%減の980万ドルで、輸入額全体の14.0%を占めた。このうち、バラの輸入額は2.2%減だったものの、日本のバラ輸入総額の43.9%を占め、ケニアは日本にとって最大のバラ輸入相手国であることに変わりはない。

日系企業の動向は、進出分野が多様化している。建築材料・住宅設備機器メーカーのLIXILが2015年1月に支店を設立し、節水型トイレの販売を開始した。外食チェーン大手トリドールの子会社トリドール・ケニアは2015年3月に日本食のファストフード店の1号店を、11月に2号店をオープンした。廃棄物処理トータルプランニングの白井グループは、経済発展に伴い深刻化する廃棄物処理問題を解決するため、2014年12月にクリーンテックイーストアフリカを設立した。豊田通商は、ケニアの農業事業全体の発展につながる肥料製造事業の実現に向け、2015年9月から配合肥料工場の建設を開始しており、2016年8月に完工した。あずさ監査法人は、現地でも有力なKPMGケニアに日本人の公認会計士を出向させ、日系企業の進出支援および税務会計、企業の合併・買収(M&A)などのサポートを進めている。

第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)が2016年8月にナイロビで開催されたこともあり、日系の製造業やサービス業などで、ケニアに支店を設立したり、現地企業と合弁企業を設立したりする機運が高まっている。